

JAL闘争を支える京都の会News No.87

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

大手筋商店街 宣伝行動

「私たちが求めているのは 真の労働者的解決」

8月30日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「9条ネット・滋賀」「合同繊維労組」「連帯労組関生支部」の皆さんなど、14名に参加していただきました。JHU（JAL被解雇者労働組合）からは副委員長の神瀬麻里子さんに参加していただきました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「ダメなものにはダメ、安全でないものには安全でないと言い続けることができたのも、しっかりとした労働組合があったからこそである。山崎豊子さんが書かれた小説『沈まぬ太陽』にも描かれていたが、JALの労働組合敵視の政策はまったく変わっていない。労働組合差別がとても激しい職場であった。そんな中で2010年の1月19日にJALは経営破綻した。経営破綻



の原因は長年にわたる放漫経営、そして日米貿易摩擦の責任をとらされて、たくさん飛行機を買わされた、そのような経営の失敗が破綻の原因なのに、過去の責任者は誰一人責任をとっていない。私たち働くものにその責任すべてを押し付けた。解雇をしたのは165名だが、その時に大量の希望退職を募り、泣く泣くやめていったベテランが大勢いる。航空会社にとってベテラン社員は宝ものである。



一人前のパイロットや社員がすぐに出来上がるものではない。それぞれの立場で誇りをもって働いてきてJALを支えてきた労働者を、JAL経営は無残にも解雇し、無理やり希望退職をさせた。私たちその時に解雇になったベテラン社員の全員が37年前に起きたJAL123便・御巣鷹山事故の日も乗務をしていた。520名もの命と暮らしを奪ったJALは、その後絶対安全を誓った。JALが起こした航空機による死亡事故は123便事故だけではない。JALは羽田沖事故など、これまで744名の尊い命を航空機事故で奪っている。稲盛和夫氏が2010年の1月の経営破綻後に三顧の礼をもってJALに迎えられた。その後、奇跡的な経営の回復をさせたということで、経営の神様と言われているが、本当にそうなのか。稲盛和夫氏がJALの会長として乗り込んで来られて一番最初に言ったことが『儲けなくして安全なし』『安全のことを言う前に1兆円の内部留保をつくれ』

稲盛和夫氏が2010年の1月の経営破綻後に三顧の礼をもってJALに迎えられた。その後、奇跡的な経営の回復をさせたということで、経営の神様と言われているが、本当にそうなのか。稲盛和夫氏がJALの会長として乗り込んで来られて一番最初に言ったことが『儲けなくして安全なし』『安全のことを言う前に1兆円の内部留保をつくれ』

ということであった。そしてもう一つ重大なことを言われた。『あの解雇は皆さんもご承知の通り必要がなかった。』そのように解雇直後の2月に言われた時の衝撃、驚きを忘れることはできない。解雇の責任者であった稲盛和夫氏が、あの解雇は必要でなかったと言っているにもかかわらず、11年と8か月、この解雇問題を解決してほしいと言っているのに、まったく後ろ向きの姿勢を見せ続けているのがJALの経営である。私たちが求めているのは原職復帰、そしてこれまで働いていたはずの賃金を払ってほしい、その2つだけなのに、JALはそこにまったく答えていない。私たちJHU・JAL被解雇者労働組合はJALの出してきた業務委託で2年間働けるという提案は受け入れることはできない。JHUはこれからも闘っていくことを決意した。京都の皆さん、この闘いにご協力とご理解をお願いします。」

そして宣伝行動が終わってしばらくしてから、稲盛和夫氏が8月24日に死去されたというニュースが入ってきましたが、私たちは当然解雇争議の勝利的解決をめざし闘い続けます。



京都総評定期大会でJHU・山口委員長訴え

…業務委託契約での争議解決はありえない!

・ ・ ・ 近畿の労組・団体への集中要請回り ・ ・ ・

12年目のJAL不当解雇撤回を闘うJHU山口宏弥委員長と神瀬麻里子副委員長は、9月2・3日に近畿の労組・団体への支援拡大要請に広範なオルグを展開した。

「京都・兵庫・大阪、合計14ヶ所に伺い、ご挨拶をさせていただきました。2日は高槻の参議院議員・辻元清美事務所を皮切りに、天満の国労近畿と国労西日本、天満橋の大阪全労協、神戸のひょうごユニオンと兵庫労連へ。3日は朝からラポール京都へ。全印総連京都の事務所でご挨拶。その場所をお借りして他の全国単産の定期大会(リモート開催)に参加して訴えをさせていただきました。その後京都府内の6労組・民主団体を回り、支援の御礼、経緯を紹介、さらなるご支援をお願いしました。フィナーレは京都総評第93回定期大会での争議団紹介でした。コロナ対策で時間短縮をする中、解雇問題の全面解決を目指す仲間としてJHUからも訴えをさせていただきました。ご参加の皆さんから熱い激励を受け、感無量でした。」と神瀬副委員長。



山口委員長は京都総評大会挨拶で、「先般のJALの会社側が提示してきた業務委託契約での争議解決はありえない。」と、苦しい道だが正道めざし闘い抜く決意を披歴して、京都の労働者の万雷の拍手が寄せられた。その後、京都総評・梶川憲議長の発声で団結がんばろうを三唱し(写真)、真の労働者の解決に向け闘う決意を固めあった。

次回 宣伝行動

9月18日(日)

(呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)

午後2時~3時 伏見・大手筋商店街